

平成28年度 テーマ別環境学習講座（第4回） 実施報告

「身近な外来生物から考える東京の生物多様性」

平成29年2月

公益財団法人東京都環境公社 東京都環境科学研究所

「身近な外来生物から考える東京の生物多様性」

□実施日 平成29年2月17日(金)

□受講者数 定員200名 受講申込者 163名 当日出席者 151名

□実施内容

○挨拶等

- ・事務局（研究所）から受講上の注意、資料確認、全体スケジュール等
- ・環境局総務部環境政策課企画調整担当より開講挨拶及び本講座の目的等について

○講義

☆【基調講演】

「外来生物による生態影響とこれからの対策 ～生物多様性の復元を目指して～」

（講師）国立研究開発法人国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター

生態リスク評価・対策研究室 室長 五箇 公一 氏

（講義内容概略）

- ・生物多様性とは  
生物多様性をなぜ保全する必要があるのか  
外来生物と侵略的外来生物とは
- ・外来種防除の取組  
外来生物法の施行と課題  
セイヨウオオマルハナバチ、アルゼンチンアリ、マングースなどの取組事例  
普及啓発の重要性
- ・残された課題 目に見えない外来種のリスク  
感染症対策のための「感染症の生態学」の理解  
クワガタムシとダニの進化の歴史
- ・外来種防除対策心得  
夢物語で防除を終わらせない、今すぐ使える技術と資材を活用した速攻的防除戦略、コスト対効果の明確化、政策者及び研究者の責任意識、本当にその外来種は排除したいか等の合意形成



☆「アカミミガメ問題の現状と課題」

（講師）環境省 自然環境局 野生生物課 外来生物対策室 室長 曾宮 和夫 氏

（講義内容概略）

- 日本のカメの現状
- 外来種対策の重点  
特定外来生物種の追加指定、優先順位を踏まえた防除、技術開発と情報共有（防除基盤の整備）
- アカミミガメに関する対策の検討状況
- アカミミガメを巡る現状認識と目指すべき状態
- アカミミガメ対策推進プロジェクト  
影響緩和の技術確立と計画策定、終生飼養の推進、段階的な規制、野外からの排除、身近な外来生物問題及び地域の魅力の認識・理解・行動



☆「どうする!?! アカミミガメ、野外に790万匹も生息 ～ 都内での取組 ～」

（講師）認定NPO法人 生態工房 理事 片岡 友美 氏

（講義内容概略）

- 水生生物及び水鳥に対する被害
- 生態工房の活動  
捕獲駆除、繁殖抑制、普及啓発の観点から取組を検討
- 都内アカミミガメの防除活動とその結果
- 多様な主体と連携して進める防除の取組  
手作り日光浴罨「アカミミキャッチャー」  
ポスター掲示による繁殖抑制の取組  
防除を円滑に進める普及啓発  
淡水ガメ情報交換会など



☆「井の頭池かいぼり 劇的☆ビフォーアフター

～ 市民と取り組む外来種対策と生物多様性保全 ～」

（講師）東京都 建設局 西部公園緑地事務所 工事課 課長代理 内山 香 氏

（講義内容概略）

- 井の頭池 今昔  
自然環境が豊かで、レクリエーションの場としても親しまれてきた井の頭池  
高度経済成長期の都市化、井戸くみ上げ量増加、地下水位低下等により湧水が枯渇、水草枯死・水質悪化が進行
- 地域や市民との連携で目指す池の再生  
井の頭恩賜公園 100年実行委員会  
シンポジウム開催等による気運の醸成  
市民団体、地域団体、行政による井の頭外来生物問題協議会など



- かいぼりの実施  
かいぼりとは  
井の頭池のかいぼり計画、市民とともに取り組むかいぼり作業
- かいぼり効果 劇的★ビフォーアフター  
かいぼり後の池の水質  
外来肉食魚が激減、在来の魚・エビ類の生存率が上昇  
60年の眠りから目覚めた「イノカシラフラスコモ」など希少な水草の復活
- 未来へつなごう、井の頭池の生物多様性  
モニタリング調査の実施  
在来種を次世代へ（系統保存、標本作成など）、自然再生に向けた啓発活動など

☆「井の頭かいぼり隊活動報告」

（講師）井の頭かいぼり隊 山口 行弘 氏

（講義内容概略）

- モニタリング調査  
水生生物の種類と生息状況、水の透明度・温度、水草の分布、トンボヤゴ殻収集、水鳥の数など
- 普及啓発活動  
イベント等で池の再生に向けての取組を解説、こども向け「ちょこっとかいぼり隊」の開催  
スローガン「池を汚さない」、「エサやりをしない」、「生きものを放さない」
- アメリカザリガニ防除  
水草の大敵たるアメリカザリガニを冬期を除いて週2回ワナ揚げを実施
- 井の頭かいぼり隊の1日の紹介など

